

地球環境・エネルギーと 原子力発電

2009年 10月29日

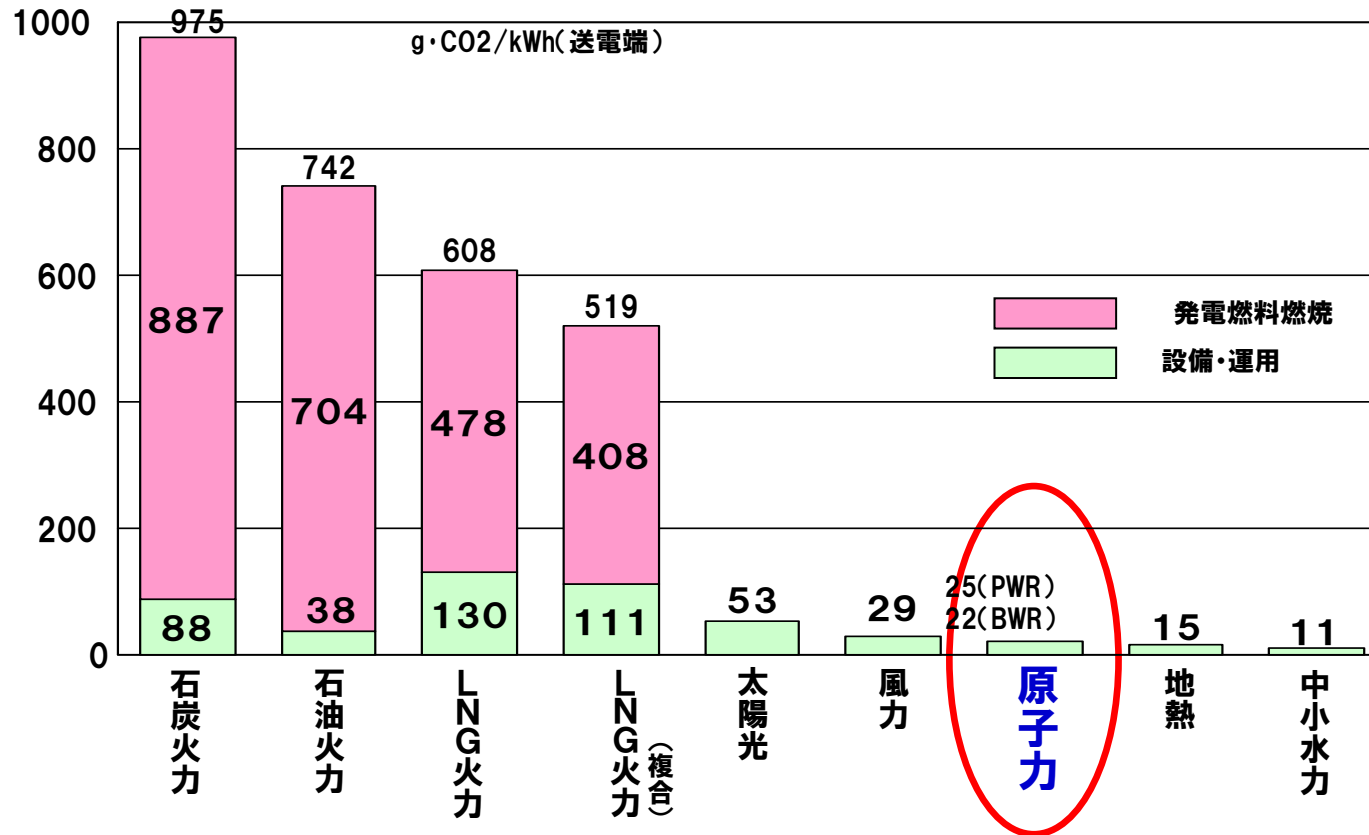
株式会社 **東芝**

電力システム社 原子力事業部

尾崎 章

原子力発電の優位性

各種電源別のCO₂排出量

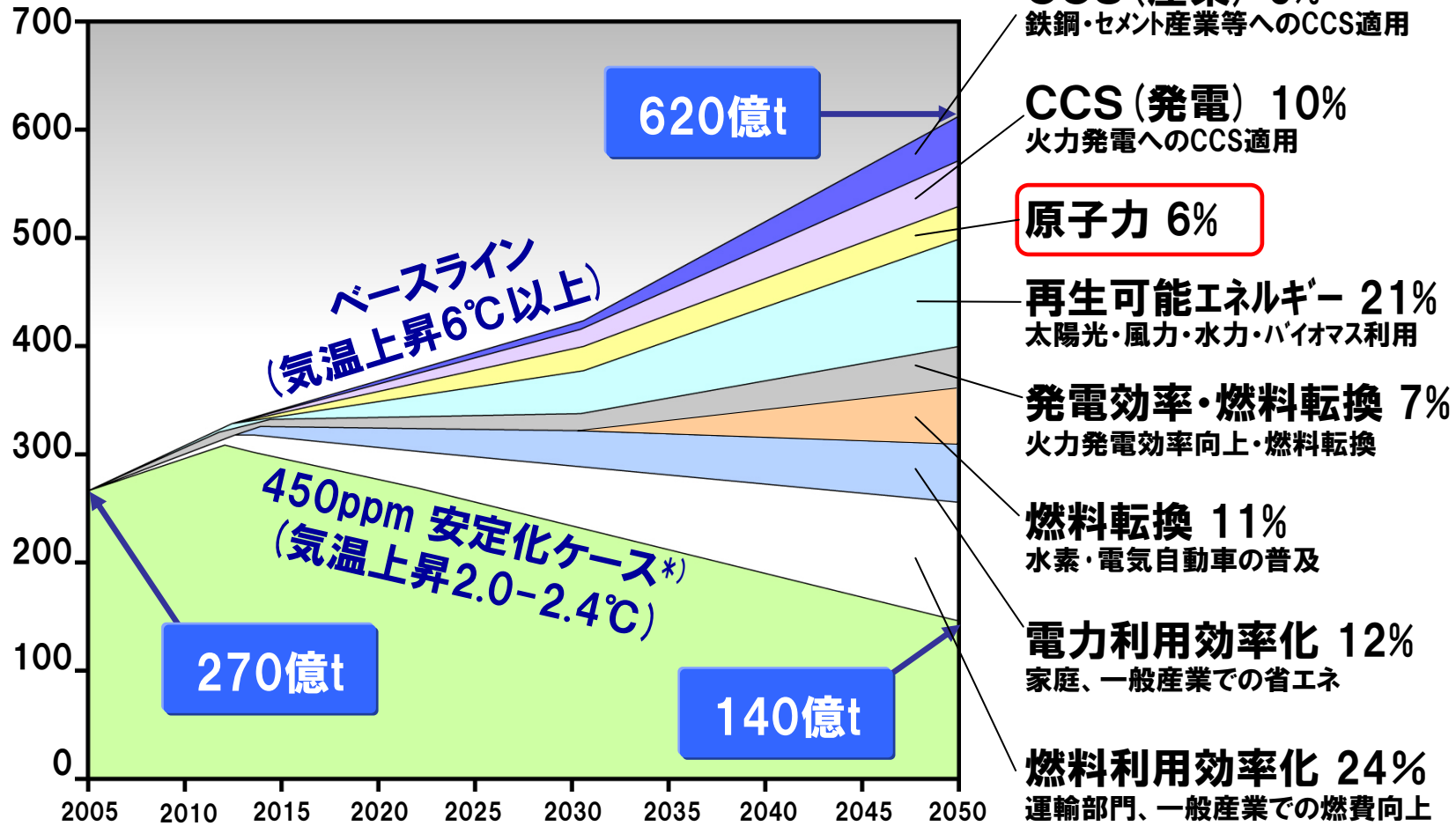


出典:原子力・エネルギー図面集 2009年版」(財)日本原子力文化振興財団

低炭素電源としての原子力発電への期待

世界のCO₂排出量削減の試算

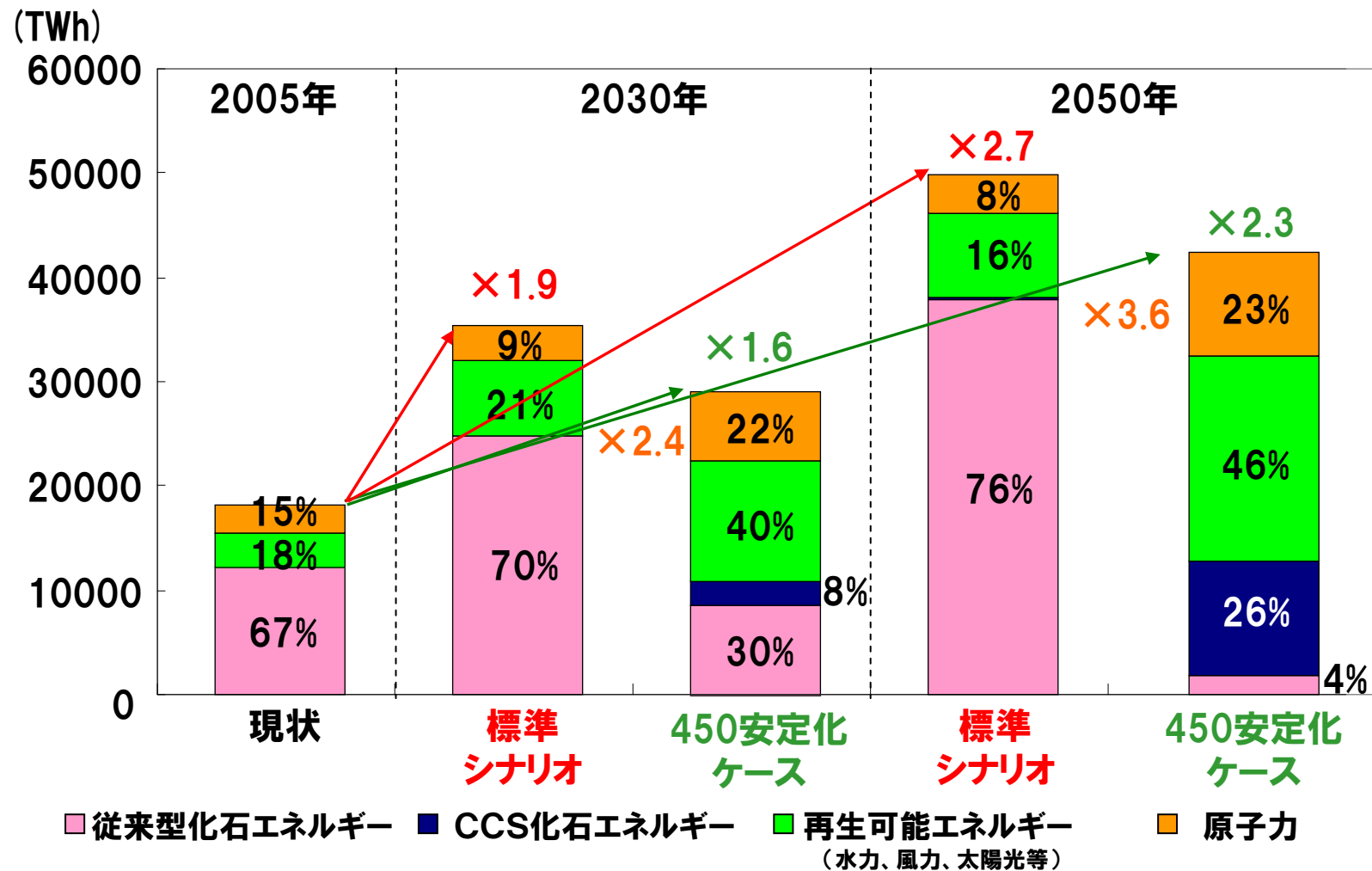
億t-CO₂ エネルギー起源のCO₂排出量の試算



出典:「Energy Technology Perspectives 2008」IEA (2008-6-6)

*) IPCC 第4次評価報告書 第3作業部会報告書 カテゴリー I

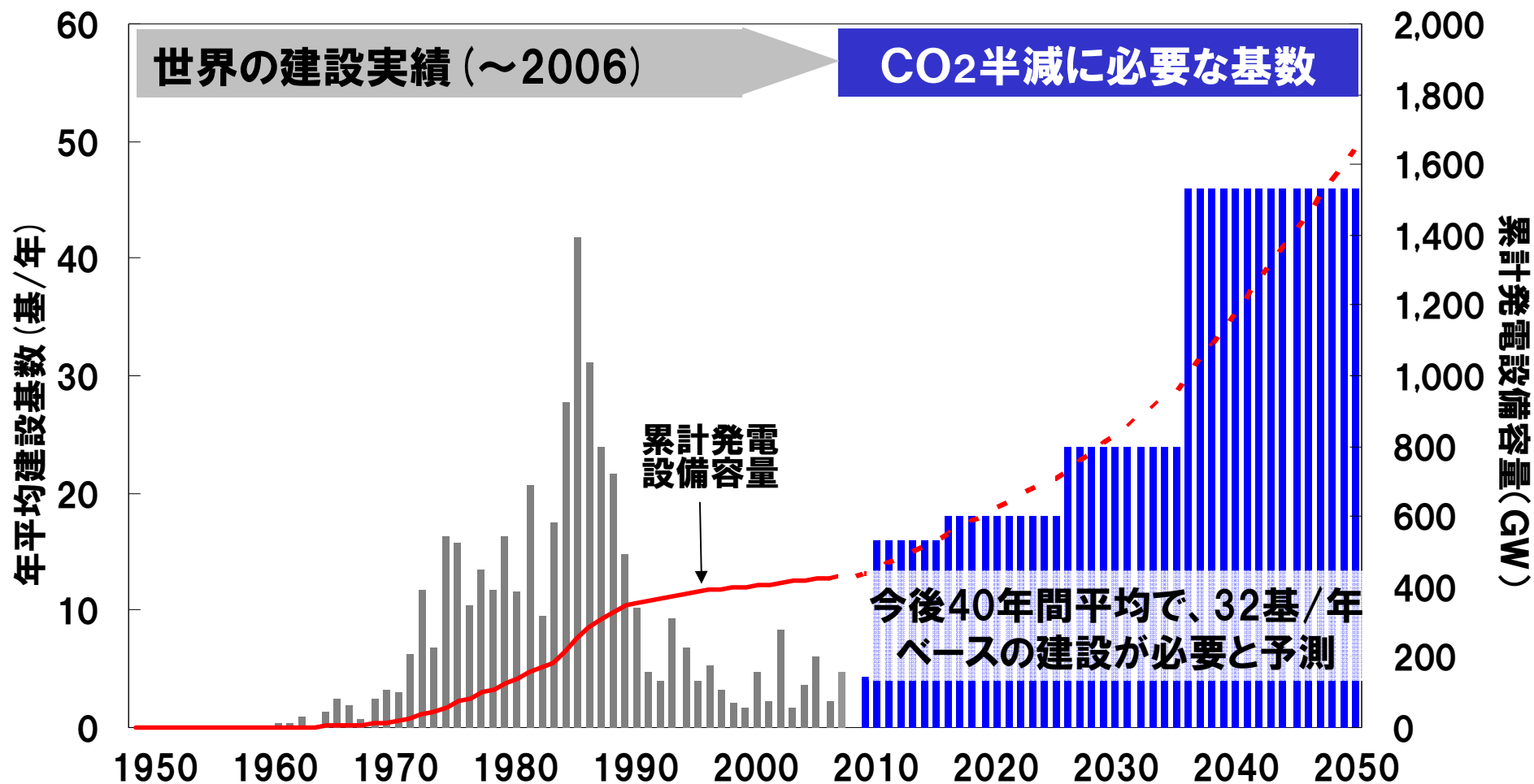
世界の発電量予測



出典:「Energy Technology Perspectives 2008」IEA (2008-6-6)

CO₂排出量削減には、原子力のさらなる活用が必要

IEA「エネルギー技術展望2008」における原子力への期待



出典：日本原子力産業協会「世界の原子力発電開発の動向2006年次報告、2009年版」
IEA「Energy Technology Perspectives 2008」より、一部試算

2050年まで、1280基の建設が必要と予測

世界から期待される日本の原子力技術

欧米： ◆ TMI事故（1979）、チェルノブイリ事故（1986）で新規建設停滞
米国は、約30年間新規発注なし

◆ 新規建設停滞により、特に機器製造供給、建設技術力低下



日本： ◆ 1960年代より、継続して建設技術・ノウハウを蓄積

◆ 開発・設計から、機器製造供給、建設技術、保守・保全に至る
総合エンジニアリング力を維持・保有



★ 高度なプラント建設技術力

短工期、厳寒地での建設、耐震技術等

★ 総合エンジニアリング力

国家的戦略資源としての原子力技術の世界へ展開